

マイウェイ

No.72
2009

かながわ名瀑物語
監修・文 相原精次
写真 桜井たけひさ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成21年9月発行 ● 発行人 小川是 ● 編集人 富安良和 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8601 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171 (直通) 大日本印刷株式会社



流れ落ち、砕け散る水の妙、県内有数の名瀑をめぐる滝見の旅。

表紙/夕日の滝(南足柄市矢倉)
裏表紙/だるま滝(足柄下郡湯河原町)

かながわの滝めぐりと歴史探検

相原精次

作家・歴史研究者

文覚上人に誘われて…

曲折して流れる川は、それ自体が人の一生を暗示するようにドラマチックなものです。その川の流に滝が加わることによって一つのスペクタクルが加わります。

川の一変形ともいえる滝は、落ちてい

る姿そのものの中に様々なドラマを感じさせてくれます。時にはやさしく、時に雄々しく、崇高に。また時には無気味に見える者の心をとらえてくれるのです。これは昔の人々も同じように感じたことでしょう。修験者が修行として滝に打たれるのも、人の精神性へ訴えかけてくる何ものかを感じるからに違いありません。

私の滝への関心は、文覚上人という鎌倉幕府創建に力を尽くした僧侶を調べる中で呼び起こされ、上人が修行をしたという那智の滝を訪ね、そして各地の滝をめぐらうちに滝がたんに自然の風景であることを超えて、歴史現象ともかわつて話が伝えられていることも多いのを知ったのです。

丹沢山塊は滝の宝庫

ところで、神奈川県には本格的な登山を楽しめる険しい丹沢山塊があり、山中

には様々な形態の滝があります。

表丹沢の葛葉川・水無川・四十八瀬川などは初級から上級までバラエティに富んだ沢登りのメッカで、多くが四、五メ

程度の小さな滝の連続で、個々の名を持たずF1・F2という番号で呼ばれています。沢の上流部では川そのものが滝である、といっても言い過ぎではないほどに、落ち、たがり、流れています。

一方、山中の奥には別名「まほろしの滝」といわれる早戸大滝や、切りたつたひと山そのものに滝がかかっているような円山木沢の滝など、大きな滝も数々あります。

また丹沢以外でも、神奈川県下には多くの滝があります。それというのも神奈川県は里山にめぐまれているからです。

当然、里山には小川や沢があり、落差は大きくないものの、いくつもの滝が形成されていました。開発のため姿を消し



上/葛飾北斎による風景版画の連作「諸国瀧廻り」に描かれた「相州大山 ろうべんの瀧」(山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵)。大山詣でにやって来た人々の様子を描いたもの。左/「良弁の滝」旧跡。落ち口に竜の頭が作られ、口からわずかに水が流れている。高さは約4メートル。



文覚上人と滝修行

「荒行の僧」として江戸時代の末期から明治初期にかけては「文覚もの」が歌舞伎の当たり狂言としてもてはやされ、錦絵の格好の素材となりました。しかし、いまでは文覚の名を知る人は少なく、各地に残る伝説・伝承のなかにのみ、その名をとどめています。

文覚は、もとの名（俗名）を遠藤盛遠という平安時代の末に京都御所を警護する北面の武士で、一本気だが、短気で粗暴な男ともいわれておりました。

さて、この盛遠ですが、以前より嫁にほしと申し入れていた袈裟御前が、すでに嫁いでいたことを知り、逆上し、強引に「行く末を誓え」と迫ります。その盛遠の決意に、断つても事は済まない、と悟った袈裟御前、「夫のある身、思いを

遂げたいなら、まふの波を殺してからにしてほしい」と申します。そこで盛遠は、打ち合わせ通りに渡辺渡の屋敷に忍び込み、波の首を掻き落とすと思いきや、それは愛する袈裟御前の首でした。誤つてはいふものの、愛する女をやめてしまった盛遠は、苦しみ抜いた末に、厳寒の那智の滝に身をまかせます。

『源平盛衰記』には、この時の様子が、次のように記されています。

「此は十二月中旬の事なれば谷のつららも堅く閉ち、松吹く風も膚にしむ。さらぬだに寒きに裸裸になり、三重百尺の瀧の水、糸を乱して落ちたる瀧壺にはひ入りて、身に任せてぞ打たれる……」

首まで水に浸かった盛遠は、不動明王



歌川国貞「本朝高名鑑 文覚上人」(山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵)

の呪を三万遍唱える決心をしました。二日、三日はそのまま過し、四日、五日目ともなると、さすがに極寒のなかでは耐えられず、水に流されてしまいました。しかし、その時、不動明王の使いの二童子に救われて、一命を取り留め、滝修行を終えたのでした。

以後、文覚と名を改めて、神奈川の酒水の滝をはじめ、諸國の山々での修行に明けられます。

神奈川の主な滝 丹沢・箱根を中心に

※地図には、6～17ページに掲載した滝以外を紹介しています。



たものもありますが、思いがけないところに、なお姿をとどめているものも多々あるのです。

そうした滝の中から、険しい山中の奥深くにあつて上空から落ちてくるような印象深い滝、あるいは土地の歴史的な逸話や物語と深くかかわってきた滝など、比較的行きやすいところをいくつか選んでご紹介しましょう。

私は、どの滝も「名瀑」という名に値するものだと思います。

あいはら・せいじ ● 1942年、横浜市生まれ。作家。神奈川県立立井高等学校に在職中から文覚上人の研究を始める。「文覚上人一代記」「文覚上人の軌跡」「鎌倉史の謎」がながわの滝「かながわの酒」など著書多数。

一 洒水の滝

足柄上郡山北町

緑の樹間を流れ落ちる姿は優美そのもの、一幅の絵を見るような美しさ。



「日本の滝百選」と刻まれた記念碑。

「洒水の滝」は、酒匂川の支流である滝沢川の上流部にある三段からなる滝です。箱根連山の東端に位置する平山に水源があるため「平山の滝」とも呼ばれ、鎌倉時代初期の僧・文覚上人が滝に打たれて修行をしたことから「文覚の滝」の別名もあります。

下段から一の滝、落差六十九メートル、二の滝は落差十六メートル、三の滝は二十九メートル。三段で、全長百十メートルを超えます。緑の樹間を流れ落ちる姿は優美そのもの、一幅の絵を見るような美しさです。「日本の滝百選」にも選ばれており、関東における有数の名瀑の一つといえるでしょう。

ちなみに「洒水」とは、密教用語で「清浄を念じて注ぐ香水」の意味。毎年七月の第四日曜日には「洒水の滝まつり」と呼ばれる白装束の行者による勇壮な儀式が行われ、多くの観光客でにぎわっています。

なお、落石の危険があるため、現在滝つぼの近くに行くことはできません。少し離れた滝見台からの眺望を楽しむことになります。流れ落ちる滝音や水しぶきを感じることはできませんが、それでも、一見の価値はあります。とくに滝の周囲が紅葉する季節がいちばんのお勧めです。



洒水の滝

交通●JR御殿場線山北駅から町内循環バス(南部循環西回り)内山行きで平山下車。徒歩約10分。



文覚上人ゆかりの「滝不動尊常実坊」には、常実坊の本尊不動明王を納める春日舎利厨子を保存(山北町指定重要文化財)。

夕日の滝

南足柄市矢倉沢

夕日に映える美しさが評判の滝。金太郎が産湯をつかったという伝説も。

大雄山駅だいゆうざんからバスで地藏堂へ。ここから徒歩約十五分ほどのところに「夕日の滝」があります。年に一度、一月十五日、滝の落ち口に夕日が沈むことからこの名がつけられたといわれています。

このあたりは金時山あしから（足柄山・猪鼻岳いのばな）のふもとで、酒匂川さかかわの支流である内川うちがわの水を集めて滝となり、躍動感あふれる姿を見せています。落差約二十五メートル、幅約五メートル。周囲は杉や檜ひのきの樹木が生い茂り、うっそうとした中にもどこか神秘的

な雰囲気漂っています。かつては箱根連山を活動の場とした山伏集団の行場として知られ、この伝統を受けて毎年七月の第一日曜日には、山伏姿の行者達による滝びらきの行事が行われています。



金太郎が遊んだと伝えられる巨大な遊び石。すぐ近くに生家跡がある。



ところで金時山とその周辺は、おとぎ話で有名な金太郎にまつわる数々の伝説が残されており、夕日の滝もその一つで、金太郎がここで産湯をつかったとのこと。近くには金太郎の生家跡や巨大な遊び石などがあります。

この金太郎には実在のモデルがいました。平安時代中期の武人源頼光の家臣の坂田公時さかたのこうときがそのモデル。古い文献で語られる場合は「公時」、文献によっては「金時」と書かれることもあります。



毎年夏の「滝びらき」では、山伏姿の行者による「禊はらい」の神事が行われ、安全・健康が祈願される（右上も）。

夕日の滝

交通●伊豆箱根鉄道大雄山線大雄山駅より地藏堂行きバスで終点下車、徒歩約15分。



内川の清流沿いに建つ「地藏堂」。室町時代の作と伝わる地藏菩薩が安置されている。

三 二重の滝

伊勢原市大山

別名「浄めの滝」。大山修験者の水垢離場として知られる神秘の滝。

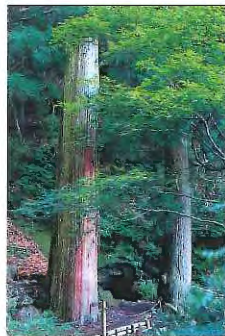
阿夫利神社下社から日向薬師方面へ向かうハイキングコースを十分ほど歩くと大山川に架かる石橋があり、その上から左手に繊細優美な滝が岩肌をすべるように落下しているのを見ることが出来ます。

これが「二重の滝」です。上段約十メートル、下段十三メートル、水量の多い時に滝の上段部分が一気に分かれて流れるため、この名がついたようです。大山で修行する修験者の行場として知られ、「浄めの滝」とも「雨乞いの滝」とも呼ばれています。

周囲は樹齢の古い樹木に覆われ、昼なお暗く、うっそうとしています。そのため、かつては杉の幹に藁人形を打ち付けて丑刻参りをした人もあったといわれ、「呪いの杉」の名を持つ古木もあります（下の写真は、その二代目です）。

また、大山には良弁僧正が最初に水垢離をしたという「良弁の滝」があります。良弁僧正とは奈良の大仏で有名な東大寺を創建した人です。この人は大山のふもとに生まれ、幼い時に鷲にさらわれて奈

良まで連れて行かれたという伝承があります。その後、東大寺の初代別当を経て、僧正になり、父母への感謝の思いを込めて晩年故郷に戻って、大山寺を創建したと伝えられています。



滝の近くに立つ杉の巨木。



大山の中腹にある阿夫利神社下社。

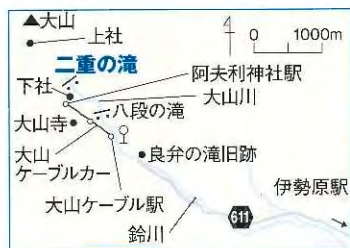


大山詣での最後の水垢離場といわれる二重の滝。滝つぼの脇には、「水をつかさどる神」を祀る阿夫利神社の摂社「二重社」がある（写真右）。



二重の滝

交通 ●小田急線伊勢原駅より大山ケーブル行きバスで終点下車、大山ケーブルの終点から徒歩約10分。



四 西沢本棚・下棚

足柄上郡山北町

丹沢最大級の「本棚」と、豪快で気品漂う「下棚」の魅力。

小田急線新松田駅から西丹沢自然教室
行きのバスに乗り終点で下車。県営の自
然教室から西沢に沿って畦ヶ丸への登山
ルートを歩きます。

この辺りの河原は花崗岩が削られた砂



落差100メートルともいわれるカラ棚。名前のとおり水量は少ない。

で覆われ、白く光っているのが印象的
です。途中、標識を頼りに、足場の悪い
道を上流へと向かいます。岩と岩の上に
置かれた手づくりの木橋をいくつも渡り
ながら一時間ほど歩くと本棚と下棚の分
岐点に着きます。この地域では「滝」を
「棚」と呼んでいます。

ここから左に折れると、十分ほどで下
棚に到着。落差四十メートルほどで豪快な中
もどこか気品が感じられる滝です。ここ
から再び分岐点に戻り、畦ヶ丸方向に歩

くと、本棚まではおよそ二十分ほどです。
ちなみに「本棚」とは「もつとも大きな
滝」の意味。こちらは落差約六十メートル。
剥き出しの岩のてっぺんから一直線に流れ
落ちる姿は圧巻です。「日本の滝百選」
に選ばれている早戸大滝よりも、この滝
が好きだという人もいるほどです。

また、この滝と向かい合って、落差と
しては丹沢一、二を争うといわれるカラ
棚もあります。豪快さでは本棚がはる
かに勝っています。



本棚（上）と下棚（右）。滝つ
ばの近くでは、轟音がこだまし、
冷気が漂い、夏でも涼しい。

西沢本棚・下棚

交通 ●小田急線新松田駅から西丹沢自然教室行きのバ
スで終点下車。西沢沿いを徒歩約1時間半。



滝へ向かう登山ルー
トに架かる木橋。

五 白雲の滝

足柄下郡湯河原町

奥湯河原の山中にひそかに流れ落ちる雄壮にして優雅な滝。

湯河原の温泉街は千歳川に沿っていま

す。この川は神奈川県と静岡県との境にもなり、川の左右の山々から流れ込む支流がいくつもの滝を形成しています。その主なものに、だるま滝・不動滝・五段滝・蛇熊滝・去来の滝・白雲の滝などがあります。

この中で、もっとも有名なのが「不動滝」で、湯河原観光のメッカのひとつにもなっていますが、滝の大きさと風格の上から一番といえるのが「白雲の滝」で

はないでしょうか。

この滝は湯河原温泉のもっとも奥まった山中の藤木川にある落差約三十メートルほどの美しい滝です。雄壮にして優雅、女性的にも男性的にも見える不思議な風格を湛えています。

かつて、この辺りの沢は「もんがくざ」と呼ばれ、文覚上人が滝修行したところだとも伝承されています。また、湯河原の山々は箱根権現（現在の箱根神社）の修験者の活動する行場でしたが、

こうした修験者の中に源頼朝を支え、鎌倉幕府草創において活躍した土肥一族がいたことも忘れてはならないでしょう。



白雲の滝

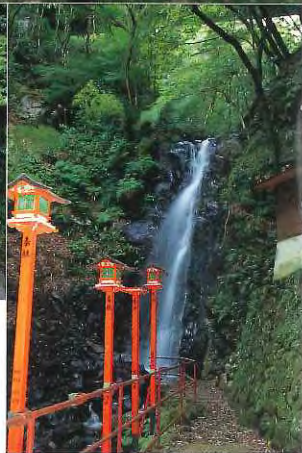
交通 ●JR湯河原駅から大観山經由元箱根行きバスで天照山下車、天照山ハイキングコースを約20分。奥湯河原バス停からは徒歩約1時間。



JR湯河原駅前に建つ土肥美平の像。



上は、白雲の滝。右は、夏目漱石の『明暗』にも登場する不動滝。左は、だるま滝。正面から見ると、滝に打たれる修行僧の姿に見える（裏表紙参照）。



六 飛竜の滝

足柄下郡箱根町

箱根随一の名瀑。まるで青空に昇る竜のような滝。

箱根山中にも数多くの滝がありますが、「飛竜の滝」は、もつとも雄大で印象的な滝です。この滝へ行くには、下るルートと登るルートがあり、時間的には下るルートがお勧めです。

国道一号線の芦之湯温泉近くの「湯坂路入口」というバス停わきに「湯坂路」というハイキングコースの入口があります。このコースに入ると、道はすぐに左右に分かれています。滝へ行くには右の道に進みます。左にとれば古道の湯坂路

滝に向かうコースの途中までは丸太の階段道が整備されていますが、そのあとは足場の悪い下り坂になり、二十分ほどで滝に着きます。滝は十五メートルと二十五メートルの二段になっていて、かつては箱根修験者の行場であったといわれています。

登りのルートは、箱根旧街道の途中、畑宿のバス停近くから須雲川に流れ込む大沢に沿って登山道を登っていきます。この道はかなり急峻です。天を仰ぐようにして、三十分ほど登って行くと、視界

が開け、前方遠く、斜面の木々の間に空から滝が落ちてくるかのように見えてきます。あたかも青空に昇る竜のように見えます。このとき「飛竜の滝」と呼ばれる意味が、実感されます。さらに登ると十分、滝は次第に雄大な姿になって目の前に迫ってきます。

ところで、登りルートの出発点となる畑宿は、箱根の代表的な工芸品である「寄木細工」で知られており、寄木会館などもあります。



上は、飛竜の滝上段。二段目の滝(写真下)は傾斜する川に沿って、岩の間を転がるように落ちている。



飛竜の滝

交通 ●箱根湯本駅から芦之湯温泉行きのバスで湯坂路入口下車、徒歩約20分。または、箱根湯本駅から旧道経由バスで畑宿下車、徒歩約40分。



ハイキングコースの途中に整備された丸太の階段道。

上/自動車の車体の生産設備。中澤さんの所属する設計技術部は、おもに自動車の車体の生産設備や計画事務を担当している。中・上/デスクの前で。中澤さんは、入社10年目の働き盛りだ。中・下/会社は、横浜郊外の深い森にある。下/視察先で。右は、シュツットガルトの森精機製作所。左2点は、コペンハーゲンの市内。



第38回神奈川県中小企業技術者等海外派遣団に参加して

海外派遣団員が語る⑦

一人ひとりが目的意識をもって、事に当たること。自分で考える大切さを再確認しました。
横浜市保土ヶ谷区 ヨコキ(株) 中澤浩之さん

環境ビジネスの先進国を視察

今年の三月一日から八日間の日程で海外派遣研修(第三十八回神奈川県中小企業技術者等海外派遣団)に参加し、デンマーク、スウェーデン、ドイツを訪問しました。

今回のテーマの一つが環境ビジネスの視察。主に環境問題に対する企業の取り組みを視察するというものですが、正直な話、最初はもう一つピンときませんでしたが、デンマークやスウェーデンが社会保障の行き届いた環境先進国ということくらいは分かっていました

が、いったいどんなビジネスがあるのか、皆目見当が付きませんでした。

自分の仕事(自動車の車体の生産設備の設計など)の関係からも、環境問題は切実なテーマですが、どこか漠然とした思いがありました。しかし、風力発電所を視察するのは楽しみでしたね。じつは昔から風車が大好きで、わざわざ風車を見に青森まで行つたくらいなんです(笑)。

ローカル・オーナーシップとは!

幸い大好きな風車の視察が担当になり、コペンハーゲンに着いて二日目に

「ミドルグロン洋上風力発電所」を訪ねました。ここは世界初の洋上発電所で、海岸から三キロほど沖合いに、三枚羽の風車が二十機ほど並んでいる。なんとも壮観な景色でしたね。

風力の利用というオランダなど有名ですが、あれは農業用です。本格的な風力発電機が登場したのは一九五〇年代ころからで、一九八〇年代に入って、デンマークで開発された小型で性能のいい発電機が世界的な注目を集めます。発電機の羽はグラスファイバー製ですが、これはヨットづくりの技術を応用したものだそうです。

【二俣川駅とその周辺】上と中・右/別名「大池公園」と呼ばれる「こども自然公園」。広大な園内にはピクニック広場や野球場が設けられている。中・左/鳴崎金子稲荷社境内のタブの古木、樹齢300年(横浜市天然記念物)。下・右/この地で戦死した畠山重忠公を偲んで建てられた「豊烈碑」。下・左/横浜銀行二俣川支店。



<http://www.yokoki.co.jp>



ヨコキ株式会社 ●横浜市保土ヶ谷区今井町555番地/最寄駅は相鉄本線二俣川駅。☎0453511211 FAX0453511231

中澤浩之(なかがわ ひろゆき) ●昭和52年、横浜市生まれ。湘南工科大学機械工学科卒業後、ヨコキ株式会社に入社。現在、設計技術部設計課に勤務。

※(勲)はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として、昭和45年より神奈川県内の工業技術者を対象に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を主催。海外の工業技術を視察する機会を提供しております。この派遣事業には、すでに約800名の方が参加し、貴重な体験をされています。なお、本年度も派遣事業を実施し、参加者の募集を行ないます。

しかし、発電所の担当の方からお話を聞いて驚きました。デンマークではローカル・オーナーシップという制度があります。地域住民が共同出資して発電所を建設するシステムです。しかも向こう十年間、国が電力コストを保障しているんです。なんと十〜二十割の配当が行われています。

もともと環境への意識が高い国民ですが、国の施策に協力する出資者に対しては経済的にも保障するんですね。このあたりは日本も見習ってもらいたいと思って、帰国してから調べてみると、横浜の瑞穂埠頭の風車も同様なシ

ステムがとられていました。このことは、今後、環境ビジネスを考える上でモデルケースとなりました。

中身の濃い仕事をするために

それからもう一つ。環境問題もそうですが、目的意識をもって物事にあたること、つまり、自分で考えることの重要性を再認識しました。

デンマークでもドイツでもそうですが、働いている皆さんの仕事に対する意識がたいへん高い。会社から言われているのではなく、自分のすべきことを分かっている、スキルアップのた

めに仕事をしているという印象を受けました。日本の会社ではチームで話し合いながら仕事を進めてゆく良さがありますが、それだけではダメなんです。とくにこれからは。

たとえば私が部下や後輩に仕事の指示を出すときにも、本人が自分で考えて答えを出すところを残しておかないと、中身の濃い仕事はできません。

今回の視察では、そんな当たり前前といえど当たり前のことを再確認することができました。

私にとつては本当に中身の濃い体験でした。(談)

ホール

△はまぎんホール ヴィアマール△からのお知らせ
ホール利用のご案内

ヴィアマールは、イタリア語で「船便」の意味。広く世界へつらなる文化、芸術をお届けするホールでありたいという願いをこめ、名づけました。みなとみらいに建つ横浜銀行本店ビル一階にあり、ジャンルを問わず、コンサート、講演会などにご利用いただけます。

施設概要

- ホール 客席数517席(前舞台使用時490席)
- 使用時間 9時～22時まで
- 使用料金 基本料金、技術者料金、付帯設備使用料の合計。基本料金は、1日を3区分に設定、平日1区分6万3千円。
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、5月3日～5日
- お問い合わせ・お申し込み先 ヴィアマールホール事務局
(銀行営業日の10時～16時) ☎045(225)2173
横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店1階



はまぎんホール ヴィアマール



<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>
 ※マイウェイへのご意見・ご要望は
info@yokohama-viamare.or.jpへ
 お気軽にお寄せください。

年金

△はまぎん△からのお知らせ
**「年金」電話相談サービス
 (無料)のご案内**

年金制度や年金請求の手続き方法など、年金に関する疑問に、何でもお答えいたします。また、年金に関連した雇用保険制度、健康保険制度についてのご相談や「年金教室」のお申し込みも承ります。お気軽にお電話ください。

- △はまぎん△年金デスク
 フリーダイヤル ☎0120(3334)0889
- 相談受付日 銀行窓口営業日
- 相談受付時間 9時～17時

編集後記

国土の約七割が緑なす森や山、さらに降水量にも恵まれてる我が国には、大小無数の滝があります。これは、丹沢山塊や箱根連山を抱える神奈川県でも同様です。「日本の滝百選」に選定されている酒水の滝をはじめ、県内各所にさまざまな滝がありますが、その楽しみは、眺めることだけではありません。落下する滝音や水しぶきを、肌で感じるにより、精神的にも身体的にも、深い安らぎを得ることができます。つまり、滝はマイナスイオンの宝庫ともいえるでしょう。そんな滝見の風習は、日本の四季の風物詩ともなっております。さらに、滝見をかねての登山やハイキング、土地に伝わる民俗・伝承を知る歴史探検

まで、その楽しみは、尽きることがありません。ただし、滝の多くは、深い山中にあります。今回ご紹介した六つの滝は、遊歩道や山道に標識が設けてあり、初心者でも比較的気軽に行ける場所ですが、それでも体力と装備、天候などに、細心の注意をはらっていただきたいと、せつにお願ひ申し上げます。最後にりましたが、監修者の相原精次氏をはじめ、取材にご協力いただきました皆さま方に、厚く御礼申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団
 事務局長 富安良和

●次号予告(2009年12月下旬刊行)
特集「かながわ神社物語」(仮題)